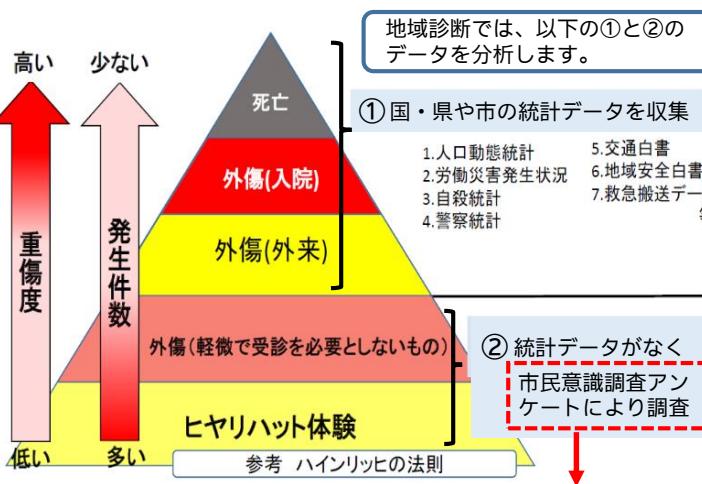


令和4年度 郡山市セーフコミュニティ地域診断の概要 1/2

【地域診断について】

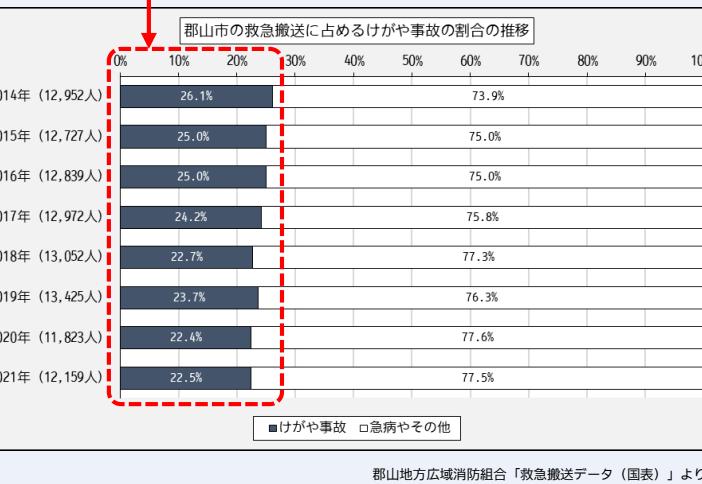
地域診断は、郡山市におけるけがや事故の状況を明らかにするため、隔年で実施している。これまでに収集した統計データを引き続き更新するとともに、新たに6分野の対策委員会から提示された必要なデータのアンケート調査結果等を追加する。



- 1 調査の時期
令和4年6月17日(金)～7月16日(金)
- 2 調査の対象
 - ・郡山市に在住する満18歳以上の者
 - ・住民基本台帳からの年代、地域を考慮した無作為抽出
 - ・標本数 4,000人
- 3 アンケート回収数、回収率
1,680件 42%
(R2 個人票 2,284件 27.2%
世帯票 1,368件 34.2%)
※これまで世帯票4,000、各世帯最大3人までとし個人票8,400を送付していたが、今回から同一世帯への重複した抽出を除き、世帯票と個人票の内容を統一して個人票のみで調査を実施した。

救急搬送について

郡山市では、年間1万件以上の救急搬送が発生しており、その約4分の1がけがや事故によるものとなっている。けがや事故の原因を分析して対策を実施するセーフコミュニティ活動により、その予防につながる。



けがや事故について

交通安全分野 【重点課題】 高校生の自転車事故が多い。高齢者の事故は重傷になりやすい。交差点での事故が多い。

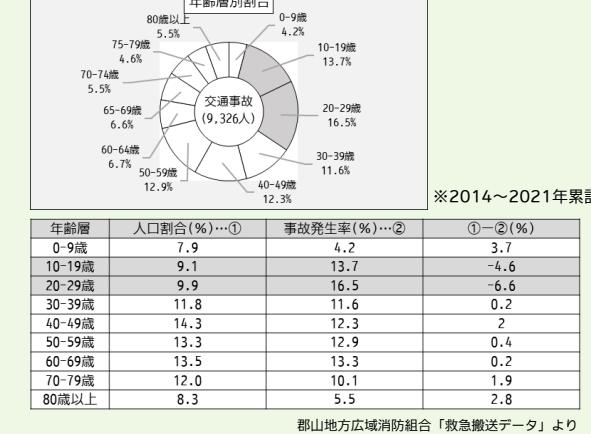
交通事故件数の推移(人口10万人あたり)

全体的に減少傾向が続いている。郡山市は、2015年以降全国より下回っているが、県を上回った状態が続いている。



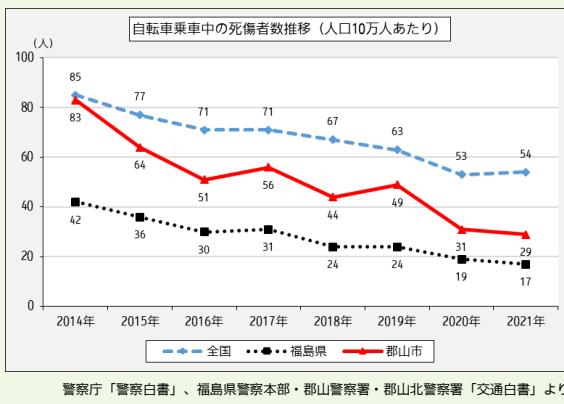
交通事故を要因とする救急搬送の年齢層別割合

「10-19歳」、「20-29歳」が人口割合に比べ交通事故を要因とした救急搬送率が高い。



自転車乗車中の死傷者数推移(人口10万人あたり)

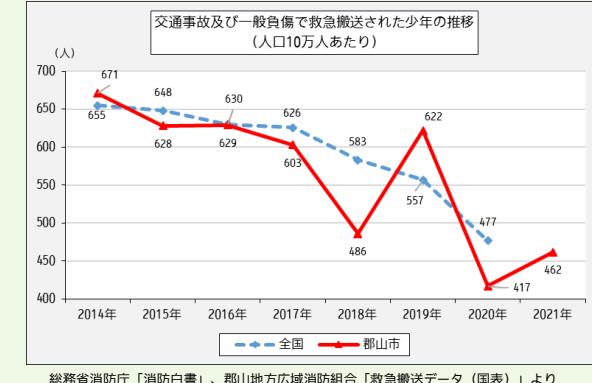
全体的に減少傾向が続いている。郡山市は、全国を下回っているが、県を上回った状態が続いている。



こどもの安全分野 【重点課題】 小学生～高校生の交通事故が多い。子ども(0～17才)に対する虐待がなくなる。乳幼児(0～6才)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い。

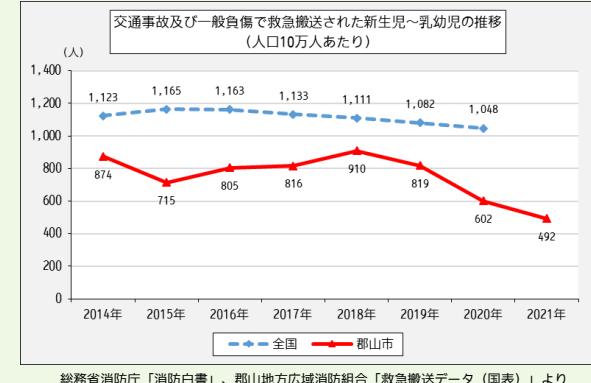
交通事故及び一般負傷で救急搬送された少年(7歳から17歳まで)の推移(人口10万人あたり)

郡山市は、2019年に全国を上回ったが、減少傾向にある。けがや事故の種別は、「交通事故」48.8%、「運動競技」24.8%、「一般負傷」23.7%となっており、発生場所は、「道路」48.6%、「公衆」40.9%となっている。(地域診断12ページ)



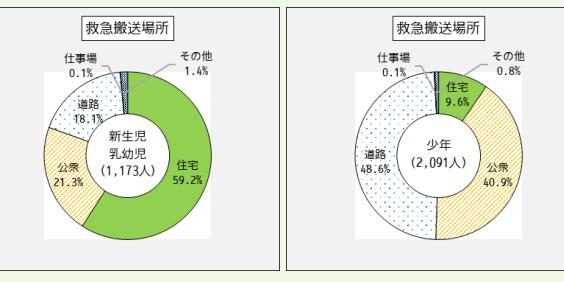
交通事故及び一般負傷で救急搬送された新生児～乳幼児(0歳から6歳まで)の推移(人口10万人あたり)

郡山市は全国を下回っているが、増加や減少を繰り返している。けがや事故の種別は、「一般負傷」77.3%、「交通事故」21.8%となっており、発生場所は、「住宅」59.2%、「公衆」21.3%、「道路」18.1%となっている。(地域診断12ページ)



こどもの救急搬送場所(2014～2021年累計)

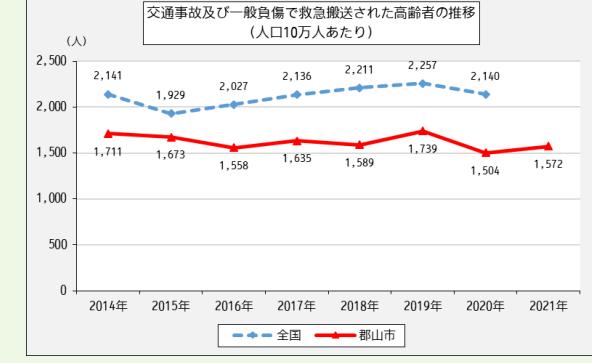
新生児～乳幼児は、「住宅」が59.2%で一番多く、次いで「公衆」が21.3%、「道路」が18.1%である。少年は、「道路」が48.6%で一番多く、次いで「公衆」が40.9%、「住宅」が9.6%となっている。



高齢者の安全分野 【重点課題】 高齢者の転倒が多い。高齢者の不慮の窒息が多い。認知症の方の増加が見込まれる。高齢者虐待が生じている。

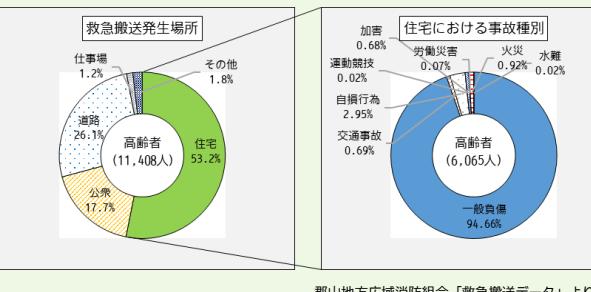
交通事故及び一般負傷で救急搬送された高齢者(65歳以上)の推移(10万人当たり)

郡山市は、全国を下回り、ほぼ横ばいで推移している。けがや事故の種別は、「一般負傷」78.5%、「交通事故」18.2%となっている。(地域診断16ページ)



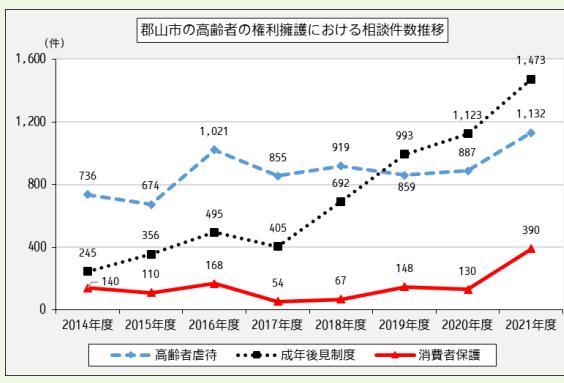
高齢者のけがや事故による救急搬送発生場所(2014年～2021年累計 11,408人)

けがや事故の発生場所は、「住宅」53.2%、「公衆」17.7%、「道路」26.1%となっており、最も多い「住宅」でのけがや事故の種別は、「一般負傷」94.7%となっている。また、高齢者の一般負傷の重症化率は、重症と死亡を合わせると11.4%となり、成人の4.5%と比べ重症化しやすい。(地域診断18ページ)



高齢者の権利擁護における相談件数推移

「高齢者虐待」は2016年度に増加したが、それ以降は減少傾向にあり、2021年度は再度増加した。



救急搬送の状況 (病気を除く)

「一般負傷」と「交通事故」が、全体の約9割を占める。
乳幼児と高齢者は、「一般負傷」が最も多く、少年と成人は「交通事故」が最も多い。



救急搬送要因の年代別順位 (2014～2021年累計)

順位	新生児～乳幼児 (0～6歳)	少年 (7～17歳)	成人 (18～64歳)	高齢者 (65歳以上)
1	一般負傷 1,124人 869人	交通事故 2,063人 1,007人	交通事故 10,556人 5,596人	一般負傷 10,695人 8,399人
2	交通事故 245人	運動競技 511人	一般負傷 2,984人	交通事故 1,941人
3	加害 6人	一般負傷 488人	自損行為 688人	自損行為 137人

郡山地方広域消防組合「救急搬送データ(国表)」より

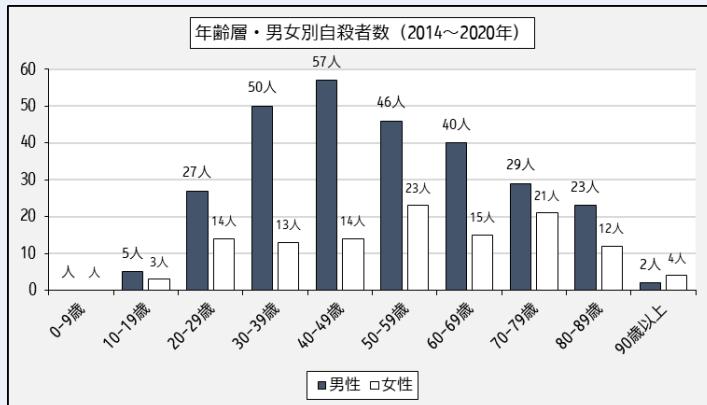
死因について (病気を除く)

2014年から2020年の累計では、「自殺」が最も多く、次いで「不慮の窒息」、「転倒・転落」となっている。(※「その他の外因」「その他の不慮の事故」を除く)

死因の年代別順位 (2014～2020年累計)

年齢層	1位	2位	3位
0-9歳	溺死・溺水 2人	煙・火・火災 他殺 1人	
10-19歳	自殺 8人	交通事故 4人	中毒・曝露 2人
20-29歳	自殺 41人	交通事故 7人	転倒・転落 3人
30-39歳	自殺 63人	交通事故 4人	中毒・曝露 2人
40-49歳	自殺 71人	交通事故 14人	転倒・転落 3人 窒息 3人
50-59歳	自殺 69人	交通事故 16人	転倒・転落 8人
60-69歳	自殺 55人	交通事故 17人	窒息 16人
70-79歳	自殺 50人	窒息 28人	転倒・転落 25人
80-89歳	窒息 85人	転倒・転落 59人	溺死・溺水 40人
90歳以上	窒息 48人	転倒・転落 34人	溺死・溺水 9人
全年齢	自殺 398人	不慮の窒息 189人	転倒・転落 145人

「自殺」は、20代から60代の男性が6割以上を占める。



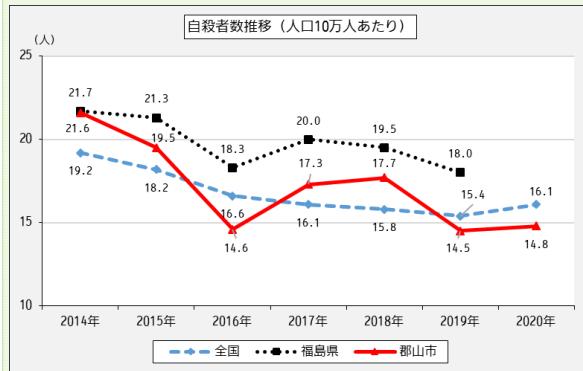
郡山保健所「人口動態統計」より

けがや事故について

自殺予防分野 【重点課題】 働き盛りの男性の自殺が多い。若者の自殺が減らない。相談窓口が知られていない。

自殺者数推移 (人口10万人あたり)

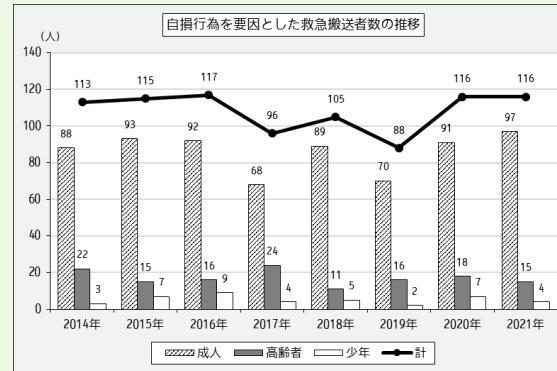
郡山市は、2014年以降、減少傾向にある。



郡山保健所「人口動態統計」より

郡山市の自損行為による救急搬送者推移

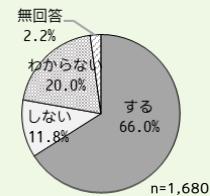
成人が約7割以上を占めている。
救急搬送者数は「18-20時」で、曜日は「月曜日」、月は「6月」「4月」「9月」となっている。(地域診断27～28ページ)



郡山地方広域消防組合「救急搬送データ(国表)」より

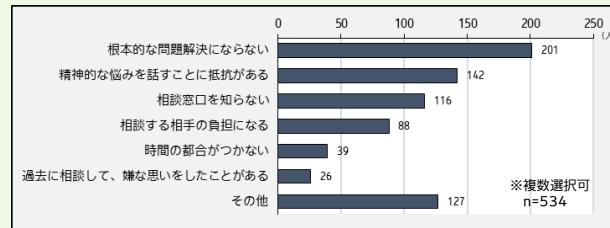
自殺予防に関する相談

もしあなたが2週間以上の不眠やこころの不調を感じた場合、誰かに相談しますか？



2週間以上の不眠やこころの不調を感じた場合、誰かに相談「する」と答えた人の割合は66.0%

「しない」「わからない」と答えた方への追加質問において、その理由は、「根本的な問題解決にならない」が最も多い。

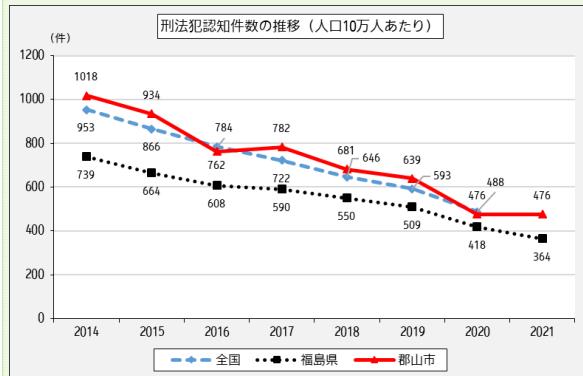


「令和4年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

防犯分野 【重点課題】 駅前の体感治安が悪い。住宅街の犯罪が多い。DVの予防活動、相談窓口が十分に認知されていない。

刑法犯認知件数の推移 (人口10万人あたり)

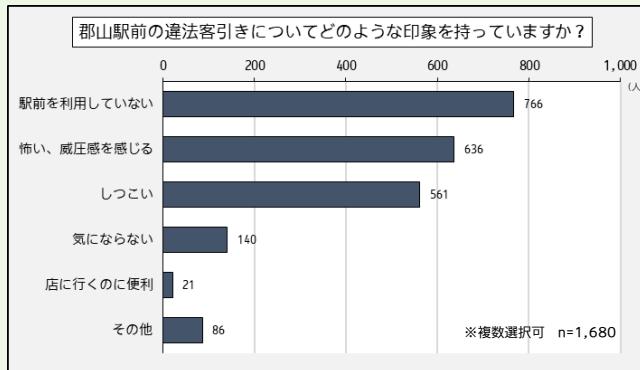
減少傾向が続いている。



警察庁「警察白書」、郡山警察署・郡山北警察署「地域安全白書」より

郡山駅前の違法客引き等への印象

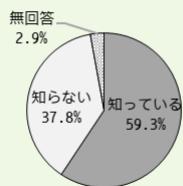
「駅前を利用していない」が45.6% (R2は39.6%)、「怖い、威圧感を感じる」が37.9% (R2は34.5%)、「しつこい」が33.4% (R2は33.0%)となっている。



「令和4年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

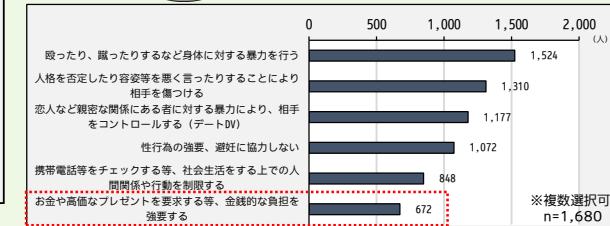
DVについて

あなたはDVの相談窓口があることを知っていますか？



DVの相談窓口があることを知っている人の割合は59.3% (H30は55.7%)

様々なDVの種類における認知度については、認知度の最も低い「金銭的な負担の強要」についてDVにあたりと認知している人の割合は40.4% (R2は22.6%)

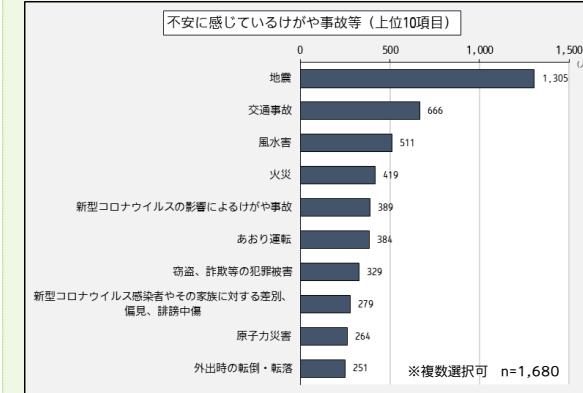


「令和4年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

防災・環境安全分野 【重点課題】 自然災害等の不安が大きいが、防災意識は低い。地域コミュニティが低下している。労働者の災害が多い(農作業中のけがや事故が多い)。

現在、不安に感じているけがや事故等

「地震」、「交通事故」、「風水害」の順に多い。



「令和4年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

市内で実施している防災活動への参加



「ない」が77.1% (R2は77.8%)

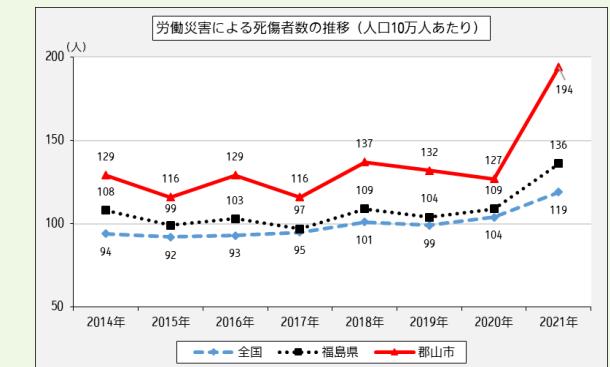
「ない」と答えた方への追加質問において「参加しない、またはできない」理由は、「実施していること自体知らない」が最も多い。



「令和4年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

労働災害による死傷者数推移(10万人あたり)

郡山市は、各年で全国及び県を上回り、2021年は大幅に増加した。※職場での新型コロナウイルス感染関連も含まれる。



厚生労働省労働基準局・福島労働局・郡山労働基準監督署「労働災害発生状況」より